

※平成30年度 後期評価試験の案内は8月初旬以降の発送になります。

JIS Z 3410(ISO 14731)／WES 8103による

平成30年度 後期 溶接管理技術者 評価試験概要

一般社団法人 日本溶接協会
溶接管理技術者認証委員会
溶接管理技術者評価委員会

1. 受験条件

申請者は、下表に示す学歴又は認証に該当する職務経験年数を有していなければならない。

学歴又は認証	等級別の必要職務経験年数		
	特別級	1級	2級
① 大学院卒業者（理工系溶接専修）	1	1	1
② 大学院卒業者（理工系）	2	1	1
③ 大学院卒業者（理工系以外）	5	3	1
④ 大学卒業者（理工系溶接専修）	1	1	1
⑤ 大学卒業者（理工系）	3	2	1
⑥ 大学卒業者（理工系以外）	6	4	2
⑦ 短期大学卒業者（理工系溶接専修）	5	3	1
⑧ 短期大学卒業者（理工系）	6	4	1
⑨ 短期大学卒業者（理工系以外）	10	7	4
⑩ 工業高等専門学校卒業者	6	4	1
⑪ 理工系各種専門学校卒業者	—	6	2
⑫ 工業高等学校卒業者（工業高校）	—	7	2
⑬ 工業高等学校以外の高等学校卒業者	—	8	4
⑭ 上記学歴によらない場合	—	—	7
⑮ 1級認証者	3	—	—
⑯ 2級認証者	—	3	—

備考 1. 表中の経験年数は最小限の必要年数を表す。

2. 経験年数は溶接技術に関連した職務に専従した期間とし、専従でない場合は職務の実態に応じて査定する。

3. 経験年数は、学歴については卒業後（受験条件①～⑬）、認証については認証取得後（受験条件⑮、⑯）の年数とする。

4. ⑤の大学卒業者（理工系）は工業高等専門学校専攻科卒業者を含む。

5. ⑪の理工系各種専門学校卒業者は、高等学校卒業以上の学歴を有している場合に認められる。

2. 評価試験予定日

■筆記試験

試験日（予定）	後期：平成30年11月11日（日）
実施地区（予定）	仙台、東京、名古屋、大阪、福岡

裏面につづく

■口述試験

試験日(予定)	後期：平成30年12月8日(土)
実施地区(予定)	原則として東京、大阪

- 1級および2級評価試験では、溶接管理技術者認証委員会が承認した研修会を受講し、修了証書を取得した受験者は、原則として口述試験は免除されます。ただし、筆記試験の結果だけでは適格性を評価できないと判断された場合には免除されないことがあります。

3. 受験申請書

- ・研修会を受講される方には、研修会の会場で受験申請書を配布し、申し込み方法の詳細などについてガイダンスいたします。
- ・研修会を受講されない方は、受験申請書を溶接管理技術者 評価試験 事務局に常備しておりますのでFAX(03-5823-5211)にて送付先などをご記入の上、お申込みください。

4. 特別級の受験

■筆記試験

○筆記試験Ⅰおよび筆記試験Ⅱ：

- ・筆記試験Ⅰは、1級に相当する内容です。筆記試験Ⅱは、「材料・溶接性」、「設計基礎」、「施工管理」(フレームおよびベッセル部門)、「溶接法・機器」の4分野から出題されます。
- ・筆記試験Ⅰは、試験日の午前中、1級試験と同じ時間に行います。筆記試験Ⅱは、午後に行います。
- ・1級溶接管理技術者の認証保有者は、筆記試験Ⅰが免除されます。したがって、筆記試験Ⅱのみの受験となります。

○筆記試験の単位制について：

- ・特別級の筆記試験については、単位制をとり、すべての単位を修得した後、口述試験を受けていただきます。筆記試験Ⅰが1単位、筆記試験Ⅱの4分野についてそれぞれ1単位、合計5単位となります。
- ・筆記試験Ⅰの合否判定基準は、1級と同一です。筆記試験Ⅱの判定基準は、総得点と各問題の得点の両方が基準を満足することが必要です。総得点が基準を満足しても各問題の得点が基準を満足しない場合には、合否は保留となり、基準に達しなかった問題を含む分野について再試験を受けることとなります。
- ・再試験は、2年以内に2回まで認められます。筆記試験Ⅰが不合格の場合も同様の扱いとなります。

○筆記試験Ⅰのみ合格の場合の1級認証：

筆記試験Ⅱが不合格で、筆記試験Ⅰのみが合格の場合、事前に申請された場合に限り1級溶接管理技術者の認証を受けることができます。この場合、1級対象の口述試験を受けていただくこととなります。ただし、評価委員会が承認した1級研修会を受講し、修了証書を取得した方は口述試験が免除される場合があります。

■口述試験

筆記試験に合格された方は、口述試験を受験しなければなりません。口述試験不合格の場合、特別級の合否は保留となり、口述試験のみを再受験していただくこととなります。